



2022年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年9月9日

上場会社名 株式会社ミロク 上場取引所 東
 コード番号 7983 URL <https://www.miroku-jp.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 弥勒 美彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部本部長 (氏名) 古味 俊雄 TEL 088-863-3310
 四半期報告書提出予定日 2022年9月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年10月期第3四半期の連結業績（2021年11月1日～2022年7月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年10月期第3四半期	8,242	—	673	—	793	—	516	—
2021年10月期第3四半期	10,715	2.7	386	△37.1	556	△23.6	382	△7.7

(注) 包括利益 2022年10月期第3四半期 629百万円 (—%) 2021年10月期第3四半期 578百万円 (48.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年10月期第3四半期	175.04	—
2021年10月期第3四半期	129.73	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年10月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年10月期第3四半期	19,197	14,677	76.5
2021年10月期	18,294	14,164	77.4

(参考) 自己資本 2022年10月期第3四半期 14,677百万円 2021年10月期 14,164百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年10月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年10月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2022年10月期	—	20.00	—		
2022年10月期（予想）				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年10月期の連結業績予想（2021年11月1日～2022年10月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,230	—	680	—	820	—	550	—	186.41

- (注) 1 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無
 2 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっているため、対前期増減率は記載していません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
 新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

- (注) 詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

- (注) 詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年10月期3Q	3,005,441株	2021年10月期	3,005,441株
② 期末自己株式数	2022年10月期3Q	55,030株	2021年10月期	54,990株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年10月期3Q	2,950,428株	2021年10月期3Q	2,950,590株

- ※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。）等を適用しております。そのため、当第3四半期連結累計期間における経営成績に関する説明は、当該会計基準の影響により、前第3四半期連結累計期間と比較しての前年同四半期増減率（%）を記載せずに説明しております。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、設備投資に持ち直しの動きが見られるものの、第7波となる新型コロナウイルス感染症の感染者数が大幅に増加し、依然として予断を許さない状況が続いております。一方、海外においてはウクライナ情勢の長期化によるエネルギー価格の高騰、インフレの加速等により先行きはますます不透明さを増しております。

このような状況のもと、当社グループは会社に関わるすべての人々に比類のない喜びと感動を与えるため、高品質な製品とサービスを世界へ提供することをミッションに、グループ一丸となって業績向上に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,242百万円、営業利益は673百万円、経常利益は793百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は516百万円となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、従来の方々と比べて、売上高は2,645百万円減少し、営業利益及び経常利益はそれぞれ5百万円減少しております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間において、セグメントの区分を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）セグメント情報 II 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

① 猟銃事業

米国市場は若干の景気減速があるものの、コロナ下におけるアウトドアブームを背景とした狩猟やスポーツ射撃の人気に牽引され、当社製品のOEM供給先であるブローニング社からの受注は堅調に推移しております。その結果、主力製品である上下二連銃は販売数量・売上高ともに前年同期を上回り、売上高は6,663百万円、セグメント利益（営業利益）は588百万円となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は314百万円、セグメント利益は5百万円、それぞれ減少しております。

② 工作機械事業

機械部門については、依然として新型コロナウイルス感染症等の影響が大きく、販売台数・売上高ともに前年同期に比べ減少しました。ツール部門の売上高は前年同期並みでありましたが、利益は前年同期に比べ減少しました。加工部門は比較的好調に推移し、売上高・利益ともに前年同期を上回りました。その結果、売上高は1,566百万円、セグメント利益（営業利益）は266百万円となりました。売上高につきましては、セグメント間の内部売上高16百万円を含んでおります。

③ その他事業

その他事業のうち、自動車関連事業の販売数量は前年同期を大きく下回りました。その結果、その他事業の売上高は37百万円、セグメント損失（営業損失）は9百万円となりました。売上高につきましては、セグメント間の内部売上高8百万円を含んでおります。

なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は2,331百万円減少しております。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

資産合計は前連結会計年度末に比べて902百万円増加し、19,197百万円となりました。

主な要因は、現金及び預金が498百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が309百万円、棚卸資産が967百万円、投資有価証券が88百万円増加したこと等によるものであります。

（負債）

負債合計は前連結会計年度末に比べて389百万円増加し、4,519百万円となりました。

主な要因は、1年内返済予定の長期借入金が200百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が179百万円、長期借入金が400百万円増加したこと等によるものであります。

（純資産）

純資産合計は前連結会計年度末に比べて513百万円増加し、14,677百万円となりました。

主な要因は、利益剰余金が400百万円、その他有価証券評価差額金が84百万円増加したこと等によるものであります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,124,147	2,625,227
受取手形及び売掛金	1,447,732	1,756,803
棚卸資産	4,408,924	5,376,629
その他	391,772	348,438
貸倒引当金	△181	△51
流動資産合計	9,372,395	10,107,048
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,393,652	1,352,835
機械装置及び運搬具(純額)	1,888,401	1,785,399
土地	1,687,995	1,685,179
その他(純額)	305,391	507,849
有形固定資産合計	5,275,442	5,331,264
無形固定資産	85,263	96,920
投資その他の資産		
投資有価証券	2,980,076	3,068,510
その他	594,583	606,328
貸倒引当金	△13,091	△12,991
投資その他の資産合計	3,561,568	3,661,847
固定資産合計	8,922,274	9,090,033
資産合計	18,294,670	19,197,081

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,189,320	1,368,960
1年内返済予定の長期借入金	200,000	—
未払法人税等	120,967	161,973
賞与引当金	149,246	178,881
役員賞与引当金	22,789	20,883
その他	853,756	872,801
流動負債合計	2,536,079	2,603,500
固定負債		
長期借入金	300,000	700,000
役員退職慰労引当金	186,666	190,421
退職給付に係る負債	639,177	667,983
その他	468,154	357,212
固定負債合計	1,593,998	1,915,617
負債合計	4,130,078	4,519,117
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,126	863,126
資本剰余金	553,778	553,778
利益剰余金	12,076,379	12,476,684
自己株式	△31,068	△31,130
株主資本合計	13,462,216	13,862,458
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	666,256	750,755
為替換算調整勘定	36,119	64,748
その他の包括利益累計額合計	702,375	815,504
純資産合計	14,164,592	14,677,963
負債純資産合計	18,294,670	19,197,081

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)
売上高	10,715,059	8,242,724
売上原価	9,480,476	6,704,030
売上総利益	1,234,583	1,538,694
販売費及び一般管理費	848,537	865,320
営業利益	386,045	673,374
営業外収益		
受取配当金	28,302	39,662
持分法による投資利益	46,600	—
助成金収入	51,063	40,647
スクラップ売却益	25,118	45,974
その他	20,791	26,486
営業外収益合計	171,875	152,770
営業外費用		
支払利息	430	656
持分法による投資損失	—	30,620
その他	1,397	1,789
営業外費用合計	1,828	33,065
経常利益	556,092	793,079
特別利益		
受取保険金	16,149	—
特別利益合計	16,149	—
税金等調整前四半期純利益	572,241	793,079
法人税等	189,464	276,636
四半期純利益	382,777	516,442
親会社株主に帰属する四半期純利益	382,777	516,442

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)
四半期純利益	382,777	516,442
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	191,341	84,655
為替換算調整勘定	4,013	17,238
持分法適用会社に対する持分相当額	268	11,234
その他の包括利益合計	195,623	113,128
四半期包括利益	578,401	629,571
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	578,401	629,571

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

主な変更点は以下のとおりです。

・輸出販売に係る収益認識

猟銃事業における輸出販売に関して、従来は主に船積時点で収益を認識していましたが、インコタームズ等で定められた貿易条件に基づき、リスク負担が顧客に移転した時点で収益を認識する方法に変更しております。

・代理人取引に係る収益認識

主に自動車関連事業における財又はサービスの仕入販売取引に関して、従来は総額で収益を認識していましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割（本人又は代理人）を判断した結果、代理人に該当する取引については、純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,645,870千円、売上原価は2,639,879千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は5,990千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は3,935千円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「その他」に含めておりました「前受金」の一部及び「固定負債」の「その他」に含めておりました「長期前受金」は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」とし、「流動負債」の「その他」に含めております。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

2. 時価の算定に関する会計基準の適用

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

（追加情報）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積りについて

前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積りについて、重要な変更はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2020年11月1日 至 2021年7月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	猟銃事業	工作機械 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,983,741	1,490,886	7,474,628	3,240,431	10,715,059	—	10,715,059
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	14,464	14,464	13,996	28,461	△28,461	—
計	5,983,741	1,505,350	7,489,092	3,254,427	10,743,520	△28,461	10,715,059
セグメント利益 又は損失(△)	256,040	299,709	555,749	△8,144	547,605	△161,559	386,045

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車関連事業、IT/IoT/AI事業、木材関連事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△161,559千円には、セグメント間取引消去7,791千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△169,351千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない提出会社の営業費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2021年11月1日 至 2022年7月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	猟銃事業	工作機械 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,663,017	1,550,486	8,213,504	29,219	8,242,724	—	8,242,724
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	16,171	16,171	8,483	24,655	△24,655	—
計	6,663,017	1,566,658	8,229,675	37,703	8,267,379	△24,655	8,242,724
セグメント利益 又は損失(△)	588,379	266,934	855,314	△9,147	846,167	△172,792	673,374

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車関連事業、IT/IoT/AI事業、木材関連事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△172,792千円には、セグメント間取引消去2,488千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△175,281千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない提出会社の営業費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

（報告セグメントの区分の変更）

第1四半期連結会計期間より、当社グループ内の業績管理区分の見直しを行い、従来、「猟銃事業」に含めておりました連結子会社である株式会社ミロクリエの業績を「IT/IoT/AI事業」とし、「その他」に含めることといたしました。

また、報告セグメントとして記載しておりました「自動車関連事業」につきましては、量的な重要性が乏しくなったため、第1四半期連結会計期間より「その他」に含めて記載しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを記載しております。

（収益認識に関する会計基準等の適用）

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて当第3四半期連結累計期間の「猟銃事業」の売上高は314,677千円、セグメント利益は5,990千円減少し、「その他」の売上高は2,331,192千円減少しております。